

二〇二五年一〇月一八日

門川の緩き流れや散紅葉	康子
天高く舞ひ飛ぶ鳶の笛の音	あひる
縮緬波畳にたたむ須磨の秋	こすもす
首塚の梵刻深き秋日影	せいじ
車窓いま綺羅の海坂須磨涼し	むべ
波止眩し秋日を弾く潮だまり	むべ
海の橋釣瓶落としの日を弾く	むべ
秋潮の綺羅に散らばる漁船かな	うつぎ
水脈涼し縮緬波をニタ分けに	澄子
爽やかや海風通ふ異人館	うつぎ
国生みの島へ秋潮またぐ橋	むべ
菊手向く塚の敦盛寧かれと	澄子
黒松のますらをぶりや浜涼し	むべ
眼下には大秋晴れの須磨淡路	わかば
松越しにきらめく須磨の海涼し	みきえ
句碑巡る盗人萩を道連れに	うつぎ

定例WEB句会みのる選

二〇二五年一〇月一八日